

残暑で暑い日はありますが、秋の気配が深まり朝晩は涼しく、少し過ごしやすくなりました。
9月1日防災の日を迎え、防災意識を高めて緊急時に備えていきます。当事務所も災害応急対策に関する講習会を開催し、管内自治体主催の総合防災訓練に参加してきました。

「大仲津谷第1」及び「大河原岡谷第1」砂防堰堤が完成！ ～砂防堰堤の完成報告と、 工事期間中の地域の皆さまのご理解ご協力に感謝し、皆で完成を祝いました～

9月10日に行われた大仲津谷の竣工式には、諸家区長をはじめ住民の皆さま、工事関係者など20名が参加し完成を祝いました。式典終了後には堰堤下流へのアマゴの記念放流が行われました。



諸家区長様ご挨拶

○田中諸家区長様より

「ここ諸家集落では、伊勢湾台風で土砂災害が起き12人が死亡、行方不明となった。この砂防堰堤の完成により、地域の安全安心が高まったことに感謝し



ています。」
と嬉しいお言葉をいただきました。



9月11日に行われた大河原岡谷の竣工式では、大河原区長をはじめ住民の皆さま46名、工事関係者など12名が参加し完成を祝いました。



大河原区長様ご挨拶

○浅野大河原区長様より

「この堰堤の完成がきっかけとなり、一度はこの地を離れた住民らが再びこの地に集まることが出来た。皆がこの大河原地区を愛し、次世代に引き継ぐ田舎



にしようと頑張っています。堰堤の完成を皆で感謝しています。」とお言葉をいただきました。

大仲津谷第1砂防堰堤

- ・設置場所：揖斐川町坂内諸家
- ・施工者：株式会社 山辰組
- ・堰堤高：9.5m 堰堤長：54.6m 形式：重力式堰堤
- ・全体事業費：376百万円

大河原岡谷第1砂防堰堤

- ・設置場所：本巢市根尾大河原
- ・施工者：株式会社 所組
- ・堰堤高：12.5m 堰堤長：77.5m 形式：重力式堰堤
- ・全体事業費：748百万円

工事報告及び御礼

3年にわたって工事を進めてまいりました大仲津谷第一砂防堰堤ですが、無事に竣工しましたのは、ひとえに日頃から、ご支援 ご指導 ご協力いただいております越美山系砂防事務所の皆様、諸家地区の皆様、また工事に携わってくださった皆様のご尽力の賜物と、心から感謝申し上げます。



(株)山辰組
現場代理人
井上 勝彦さん

工事経過報告

本事業は平成25年7月に着工し3年間(4期)に渡り行いました。大河原における工事の特性は「冬季通行封鎖期間」があり、「工程管理の徹底」が重要でありました。

施工範囲などについては発注者との協議と調整を行い、又、大河原地区の皆様のご理解、ご協力のおかげにより平成28年7月に無事無事故にて竣工する事が出来ました。



(株)所組
現場代理人
小澤 清孝さん

無人航空機による災害応急対策に関する講習会を開催しました

平成28年8月31日（水）に（一社）岐阜県測量設計業協会と越美山系砂防事務所で協同で無人航空機による災害応急対策に関する講習会を開催しました（防災に携わる岐阜県内のコンサルタント関係、官公庁職員を中心に約80名が参加）。

近年、災害発生箇所UAVを利用した現地調査が実施され注目されています。

災害時には、迅速かつ視覚で判断できる情報提供が求められており、調査にあたり企業・行政間での目的共有を行うために、講習会を開催しました。

事務所長からは、災害時の初動調査にあたり、「行政側には、UAVの機器能力の限界を理解したうえで実施する」「企業側には、行政の関心と、企業の関心が異なっている」互いに目的を理解した調査が迅速な情報提供に結びつくことを講演しました。



事務所長による講演



測量設計業協会による実演

測量設計業協会からは、各企業より実機を用いてUAV活用時における飛行時の留意点・撮影・測量と、基礎から応用的な事まで幅広く実演や解説を行いました。



モニターで映像確認



- 【土砂崩れ発生時、調査報告資料 イメージ】
（何処で何が起きているか分かり易く）
- ・流域の全景
 - ・崩壊地の近景
 - ・崩壊地下流の砂防施設状況
 - ・保全対象の状況

本巣市と揖斐川町の総合防災訓練に参加してきました

8月28日に本巣市（糸貫ぬくもりの里）及び揖斐川町（揖斐小学校）で総合防災訓練が行われ、訓練参加者にパネルを使って事務所の取組みを紹介しました。

本事務所では管内含めた周辺地域で大規模土砂災害が発生すれば自治体・県と連携して緊急調査を行います。緊急時に備え、関係機関と連携強化が取れるよう、越美山系大規模土砂災害危機管理連絡調整会を年数回開催し、災害時の役割分担や連携内容の調整そして合同防災訓練を実施している事を紹介しました。



訓練の様子
（揖斐川町総合防災訓練）



パネルによる説明
（揖斐川町総合防災訓練）

東京オリンピックをめざして！

リオオリンピックで競技初のメダリストが誕生し、注目を集めたカヌー。

事務所のある揖斐川町で「2016カヌージャパンカップ」が開催され、揖斐川の豊かな自然環境を生かしたコースで日本トップクラスの選手が華麗なパドルさばきを披露しました。



スラローム競技でゲートを通する選手
（提供：揖斐川町）



※法人については文中敬称略

クマタカ通信をメール配信します。配信希望の方は下記宛に「配信希望」とメールを送信して下さい。また、クマタカ通信の感想やご意見もお待ちしています。

発行 国土交通省中部地方整備局
越美山系砂防事務所 揖斐川砂防出張所
〒501-0619 岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪2303-3
Tel: 0585-22-3526 Fax: 0585-22-6626
E-mail: cbr-ibigawasabo@mit.go.jp

コラム：治水事業等のストック効果について

文：越美山系砂防事務所長 伊藤 誠記

最近、インフラの「ストック効果」を評価しようという動きが盛んです。しかし、砂防事業や河川事業が表に出てくることは少なく、ストック効果事例を並べた国土交通省のホームページ※においても、治水関係の事例は道路関係より大幅に少なく、振るいません。

なぜ砂防事業や河川事業の影が薄いのか、2点ほど理由があると思います。

まず、「道路が開通し運送時間が半分になった」というのは間違いなく道路のおかげですが、「堤防ができて工場が立地した」と聞くと、「堤防以外にも消費地の近さ・交通状況・労働力の確保など色々あるだろう」と心の中でツッコミを入れてしまうからです。前者を生産性向上効果、後者を厚生効果と言いますが、要するに厚生効果は**効果が間接的で、その分説得力が減少するから**、ということが考えられます。

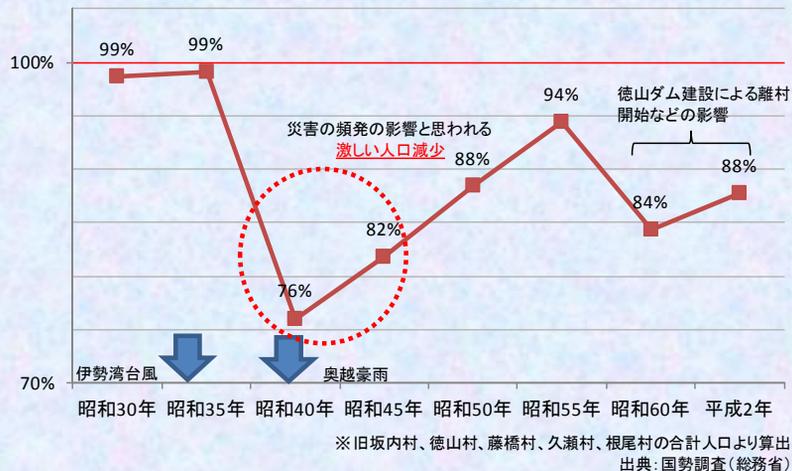
次に、一連のストック効果キャンペーンが「公共事業も成長戦略（アベノミクス）の一部ですよ～」ということをお知らせしようというところから出発しているため、**「効率性や生産性の向上」というストック効果の一部分のみにスポットが当てられ、「人命保全」という治水事業で最も重要なストック効果が脇に追いやられているから**、というのも理由の一つです。

それでは、治水事業もストック効果で国民の皆様様に評価されるためには、どうすればよいのでしょうか、上記に挙げた原因をもとに考察してみます。

まず、治水対策による経済活性化という説明が間接的に見えるのであれば、逆に「治水対策がなかったために経済活動が破壊された」状況を見せるということが考えられます。こちらは前者と違い、発生した損失が明らかのため、因果関係がより具体的に感じられます。例を示します。

右図は、揖斐川上流域の昭和30年から平成2年にかけての人口増減率です。伊勢湾台風、奥越豪雨といった大災害後、激しい人口減少が発生していることがわかります。元村長の一人は、当時の状況を「度重なる災害と高度経済成長が相まって、山間から人が出て行った」と述べられています。結局、**昭和35年以降の10年で域内の人口は4割減（！）**となり、その後も回復することなく現在に至っています。もし50年前の災害がなければ、人口減少はもう少し緩やかで、現在ももう少し活気があった可能性が高いと考えられます。つまり**大規模自然災害は、将来にわたる人口減少という、経済活動にとって回復不能なダメージを地域に与えます**。このような災害を繰り返させない、これこそが治水事業のストック効果であります・・・という説明です。難点は、成長戦略なのに明るくないことでしょうか。

揖斐川上流域の人口減少率（当該年の人口／5年前の人口）



2点目は、「経済の成長戦略」という方針が、今後も日本にとって最重要な施策であるのであれば、治水事業自体もそちらにシフトするというスタンスかと思えます。現在の治水事業は、事業を実施するかどうかは基本的に「守られる人命が多いかどうか」で判断されています。しかしこれは、人口が増加していく時代に制度設計されたものです。人口が減少し、産業の生産性が経済成長のために重要視される時代にあっては、保全される企業の価値により事業の実施を検討する、経済成長に関わる企業は積極的に保全するという方向性は検討されるべきかもしれません。

いずれにしても、治水事業がより国民に理解されるよう、我々行政は努力しなければなりません。よいアイデアがあれば、ぜひご教示お願いいたします。

※) 「くらしと経済を支えるインフラ-インフラのストック効果-」